

県内初 ハイブリッド手術室を設置

市民病院では、第3次救急医療を担う地域の中核病院としての医療水準の確保及び多様化する患者ニーズに対応する機能の充実を図るため、ハイブリッド手術室を県内で初めて設置しました。

ハイブリッド手術室とは、低負担治療を代表するカテーテル治療と外科手術を組み合わせた新しい治療に適したものです。ハイブリッド手術室では、二種の治療を同時に行うことが出来るほか、急変時には、その場で即時に通常手術へ移行して安全性を確保します。従来の方法と比較して、患者の負担は著しく軽減され、結果として以前ならば手術が不可能とされた危険性の高い重症例も治療が可能となりました。

現在、欧米を中心にハイブリッド手術室を利用して、心臓弁膜症や大動脈瘤などを対象にした治療が幅広く行われています。

市民病院では、市民の皆さんに安心して治療を受けていただけるように、高度医療の更なる向上を目指し

て、市民の健康を守るにふさわしい病院として、信頼に応えていきます。



市民病院総務課 ☎66 ◆ 7006

伊賀川桜堤

日本では、桜を愛でるかたが大変多いと言えます。昔から多くの歌に詠まれ、特に桜の散り際を見て「美しい」とか「心が惹かれる」など特別な感情を抱きます。人生にもなぞらえるくらいだから、私たちの生活から桜を切り離すことはできません。

岡崎公園内や乙川と並んで伊賀

川の桜堤を楽しむかたがたくさんいらっしやいます。恐らく川幅が狭いので、両岸に咲く桜が重なり合っで見えるのが、人の心を捉えるのでしよう。昭和14年ごろ、町の花咲かじいさんが、伊賀橋から上流の両岸に、桜を千三百本ずつ植えたのが始まりで、先人の努力が今日の隆盛につながったのです。かねてより言われていたのは、伊賀川の桜は樹齢70年以上の老木が多く、いずれは植え替えなければならぬとされてきました。それが4年前の8月末豪雨で早まってしまいました。県の河川工事で桜がなくなってしまったかのように見えます。実は工事が終わる25年度末には、桜の植え直しを行います。その数は7割ほどになります。若い木を植え替えることで将来に備えます。私も安心して暮らすのを最優先に、桜を愛する一市民として桜堤の保護に努めています。



市長室より

Next!
岡崎

岡崎市長
内田 康宏